

小児口腔保健科学入門（仲井 雪絵）

Introduction to Pediatric Oral Health Sciences (Yukie Nakai)

キーワード

- ① 行動科学
- ② 成長・発達
- ③ 口腔保健
- ④ 口腔機能発達
- ⑤ 小児歯科臨床

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,④,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,④,⑤

授業概要

超少子超高齢化社会において、健康寿命の延伸に必要な条件の1つとして口腔健康が学術的に示されている。特に、ライフステージの始まりである小児期から口腔機能を健全に育むことが、高齢期のフレイル予防に寄与するものと考えられる。本講義では顎口腔器の機能の健全な発育機序ならびにそれを阻害する因子について理解するとともに、出生前からの予防介入の意義に関する最新の情報を学ぶ。なお歯科医師免許を有する学生に対しては、小児歯科臨床に必要な知識と技能についても考慮する。

授業科目の学修目標

小児は未来の高齢者である。小児期に限局した健康科学ではなく、小児期は連続性をもったライフステージの始まりであることを認識し、小児歯科学的観点から課題を俯瞰的に発見し、その課題解決のための方略を探索し研究方法を立案するための知識・態度を修得する。

授業計画

- ① 小児歯科学の基本事項
 - ・小児歯科における行動科学の基礎 4コマ 仲井雪絵
 - ・小児口腔疾患と障害の特徴 6コマ 仲井雪絵
- ② 臨床研究および疫学研究に関連する研究倫理指針 4コマ 仲井雪絵
- ③ 小児歯科学的な研究の視点
 - ・小児期における齲蝕および歯周疾患の予防と治療法 4コマ 仲井雪絵
 - ・歯科恐怖の疫学と行動科学的アプローチ 4コマ 仲井雪絵
 - ・口腔機能発達不全 4コマ 仲井雪絵
 - ・周産期口腔健康管理 4コマ 仲井雪絵

教科書および参考書

小児歯科学 第6版(医歯薬出版)
小児歯科学・小児保健に関連する国内外学術雑誌
その他必要に応じて提示

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

小児歯科学に関する大学歯学部卒業レベルの知識を有していること。国内外の原著論文や総説論文、Reference manualを熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 小児歯科学の基本的事項を説明できる。
- ② 小児歯科学領域における研究倫理を理解し、応用できる。
- ③ 小児歯科学的な研究の視点を理解し、論理的思考と批判的吟味ができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	10%	60%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- 小テスト: 研究倫理に関する理解度を判定 1回10%
- レポート: 小児歯科学の基本事項と研究の視点について課題を提出 10%×6回
- 口頭試問: 授業終了後毎回行い知識の理解度を判定 1%×30回

理想的な達成レベルの目安

理想的なレベルを80%以上とする。倫理的な事項については100%の理解を求める。